

学習内容報告書フォーマット

学校名	東十条小学校
授業者	豊田 裕美

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

海の豊かさって何だろう？

1-2. 学年

第5学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

海育科

1-4. 単元の概要

本単元で学習する内容は、私たちの生活と海との関わりである。島国であり、周囲を海に囲まれた日本。そこに住む人々の生活の発展はまさに海の恩恵によるものであると言っても過言ではない。人々と海の間には、古くから漁や船による物資の運搬などに見られ、芸術や文化の中でも海が題材として扱われているものも多くある。現在では、観光やレジャー、スポーツ、海洋資源やエネルギーの利用など多岐に渡っている。これら様々な利用の仕方について、児童自身が、興味を抱くテーマを決め、調べ、発表することを通じて、私たちの生活と海との間に古くからの強い結びつきがあり、それらを「海の豊かさ」として認識し、尊重しようとする気持ちを養う。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

第4学年では、海洋生物の多様さをテーマに学習を行った。それを踏まえ、第5学年では、SDGsの目標の一つに掲げられている「海の豊かさ」をテーマに学習を行う。2022年現在、海洋に漂うプラスチックごみや水産資源減少などが問題視され、児童の中にも海に対する関心の高まりも見られる。それらについて扱うことももちろん重要であるが、その前提として、私たちの生活と海にはどのような関わりがあるかを学習することにより、海の大切さに気付かせたいという思いから単元設定を行った。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・古くから私たち人間が海と共に生活をしてきたということ、そのことが海の豊かさであることを理解する。
- ・自己と海とのこれからの関わりについて、見通しをもって考える。

1-7. 単元の展開（全14時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	<p>○海の豊かさとは、どんなことだろう。【海育1 / 14】</p> <p>・SDG ‘S「14. 海の豊かさを守ろう」を紹介し、「海の豊かさ」に関してどんなことが考えられるかを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な話題を提示し、考えさせる。 ・「豊かさ」という言葉からどのようなことが思い浮かぶかを考える。 ・「人間にとっての豊かさ」「生き物にとっての豊かさ」の視点で考えさせる。（ワークシート）
2 3	<p>○マイクロプラスチックゴミについて知ろう【海育2・3 / 14】</p> <p>・自然体験教室で訪れた岩井の海で、マイクロプラスチックゴミを拾う活動を通して、それがもたらす害や、なくすための取り組みについて知る。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に千葉県岩井の海岸でマイクロプラスチックゴミを拾う活動を行う。 ・拾ったマイクロプラスチックゴミがどのようにしてここまで流れ着いたのかを確認し、自分たちにできることを考えさせる。 ・お茶の水女子大と SEC の連携
4 5	<p>○岩井の海の生き物と仲良くなろう【海育4・5 / 14】</p> <p>・岩井の海にいる生き物に実際に触れ、海の生き物に興味関心をもつ。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・タッチプールの生き物に実際に触って観察し、グループで仲間分けをさせる（ワークシート） ・「手に乗せる」「なでる」「ひっくり返す」「どうやって動くか観察する」などの観察の視点を与える。 ・お茶の水女子大と SEC の連携

課 外	<p>○代表児童が与論島を訪問し、清掃活動などを体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・珊瑚礁の講義、観察会 ・海岸清掃活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・代表児童に調べてきて欲しいことや見てきて欲しいことをまとめておく。 ・代表児童は、訪問して分かったことをスライドにしてまとめる。 <p>協力：与論町海洋センター</p>
6	<p>○「海の豊かさ」について具体的に考え、テーマを決めよう【海育6／14】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間がどのように海を利用しているかについて考え、調べたいことを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「水産資源」「海洋資源」「運輸」「観光」「歴史」等のテーマが考えられる。同じテーマを選んだ児童でグループを組ませる。
7	<p>○学習計画を立てよう【海育7／14】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで決めたテーマについて、自分自身が探究していく問題を設定し、調べるための学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグループで仮説を立てさせ、それを照明するためにどのようなことを明らかにすればよいかを考えさせる。
8 9 10 11	<p>○調べ学習をすすめ、グループでまとめよう【海育8・9・10・11／14】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のテーマに沿って資料を活用して調べ学習を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットなどを活用して調べさせる。 ・調べたことは、グーグルスライドでまとめさせる。
12 13	<p>○調べたことを発表しよう【海育12・13／14】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに調べたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グーグルスライドを使って発表する。 ・他のグループの発表を聞き、考えたことをワークシートにまとめさせる。 ・グループで協力して、調べたことを発表している。(発表)
14	<p>○学習の振り返りをしよう【海育14／14】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「海の豊かさって何だろう」の単元を通して学んだことをまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを交流させる。 ・「これから自分にできることは何か」という視点で考えている。(ワークシート)

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

海育科の学習のねらいを理解し、海の豊かさについて考える活動を通して、海洋学習への興味関心を高めることができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動/反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<p>(1) SDGsについて知り、その中に海に関する目標があることを知る。</p> <p>T: SDGsには、どのような目標があるでしょうか。</p> <p>T: 目標の14は「海の〇〇〇を守ろう」です。何を守ることを目標にしているのでしょうか。</p> <p>S: 環境、生き物、安全など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGS について慣れ親しんでいない児童もいるため、どのような目標が、どうして決められているのかをスライドにして示す。 ・各目標をクイズ形式にして、意欲の高まりをねらう。 ・児童の挙げた豊かさが、誰にとっての豊かさなのかを考えさせながら黒板に整理していく。
<p>(2) 海の豊かさがどんなものか考える。</p> <p>T: 〇〇〇に入るのは、海の豊かさです。では、その豊かさとは、何でしょうか。</p> <p>S: 綺麗なこと、たくさん魚が捕れること (人側)</p> <p>S: 安全に暮らせること、えさがたくさんある (魚側)</p>	
<p>(3) 5年生の海育科のテーマを知る。</p> <p>T: 5年生では、人や魚にとっての海の豊かさについて調べたり、考えたりしていきたいと思います。</p>	
<p>(4) 学習問題に対する予想を立てる。</p> <p>T: 自分が思う豊かさについて予想してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海のゴミが少なくなれば、綺麗になって、豊かだと言えると思う。 ・たくさん魚を捕ることができれば、豊かだと言えると思う。 	
<p>(5) 学習計画を立てる。</p> <p>T: どんな風に調べていったらいいでしょうか。</p> <p>S: パソコンを使ったり、本を使ったりして調べていく。</p> <p>S: 岩井自然体験教室に行ったときに見てくる。</p>	
	<p>評 海育科のねらいを理解し、海について学ぶことに対して興味関心を高めている。 (ワークシート・観察)</p>

3. 今回の活動の自己評価

SDGsについて、聞いたことがあるものの詳しくは知らない児童が多かったため、スライドを使ったことが効果的であったと考えられる。クイズ形式にしたことも、学年の発達段階を踏まえると良かった。また、海の豊かさについての児童の発言を、「人にとっての豊かさ」と「魚たちにとっての豊かさ」と区別したことで、見る視点によって、豊かさの形が変わることに気付かせることができた。

4. 今後の課題

世界中で騒がれている海洋ゴミや水産資源減少などの諸問題について考える前提として、私たちの生活と海は、今昔でどのようなつながりがあるのかを調べていき、私たちの生活と海の間には、深い結びつきがあるということに気付かせることがねらいである。

その結びつきの形は多様であり、子供たちもそれぞれが興味をもったテーマについて追究していくことになるが、その際、児童が調べた内容の整合性や、視点が広がりすぎないようにしっかりと全員の調べ学習の進捗度合いを把握していかなければならない。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし